

近代ロシア音楽の饗宴

異才 秀才 天才

Nationalism *Romanticism* *Modernism*



TAKAMATSU
SYMPHONY
ORCHESTRA
Since 1951

高松交響楽団

第122回定期演奏会

2019 11.24 日 開演 14:00

香川県県民ホール 大ホール
[レクザムホール]

■ 主催：高松交響楽団 (TSO) ■ 協力：高松国際ピアノコンクール組織委員会 ■ ピアノ提供：(株)河合楽器製作所
■ 後援：朝日新聞高松総局、産経新聞社、山陽新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、OHK 岡山放送、
KBN 香川テレビ放送網、CMS ケーブルメディア四国、RSK 山陽放送、KSB 瀬戸内海放送、CVC 中讃テレビ、TSC テレビせとうち、
RNC 西日本放送、FM 香川、FM815、香川こまち、高松リビング新聞社、ナイスタウン出版、香川県、高松市



指揮 田久保裕一 *Yuichi Takubo*

東京学芸大学音楽科卒業。指揮を伊藤肇一、伴 有雄、汐澤安彦、秋山和慶の各氏に師事。チェロ、室内楽を黒川 健氏に師事。'80年～'92年まで12年間、千葉県習志野市にて小中学校の音楽教師を務めるかたわら、多くのアマチュアオーケストラを指揮する。'92年にプロの指揮者に転向。'92年～'93年、スイス・ルガノにおいて、R. シューマツヒャー氏に、ウィーンにてC. エスターライヒャー教授、湯浅勇治氏、および、ザルツブルクにてモーツァルテウム音楽院のH. グラフ教授に師事。最優秀者に与えられるマスタークラス修了演奏会に出演。また'93年、アウアースベルク宮殿主催の特別演奏会にてウィーン・デビュー。'94年、ディヌ・ニクレスク国際指揮者コンクール（ルーマニア）にて、グランプリ・審査員特別賞・聴衆特別賞を受賞。国内外主要オーケストラを指揮する他、全国のアマチュア団体育成や指揮法講座も数多く手掛ける。日本指揮者協会会員。東京指揮研究会代表。高松交響楽団の指揮は第109回定期演奏会（'12）に続き二度目となる。



ピアノ ゲルマン・キトキン *German Kitkin*

第4回高松国際ピアノコンクール ファイナリスト

'94年、ロシア・オレンブルク出身。7歳からピアノを始める。15歳でモスクワ州立ショパン音楽学校へ入学、故 V. ゴルノスタエヴァ氏に師事。モスクワ音楽院にてM. ヴォスクレセンスキー氏のもとで学び、'18年同音楽院卒業。M. ロストロポーヴィチ財団奨学金、ロシア連邦文部科学省奨学金、モスクワ政府奨学金、ロシア連邦大統領奨学金、ヤマハ音楽奨学金等を受ける。若い演奏家のためのロマンティック野外音楽祭（モスクワ）、ドビュッシー生誕150年記念祭（モスクワ）、'13年オーフス国際ピアノコンクール（デンマーク）、若いピアニストのためのノイハウス国際コンクール（モスクワ）、'17年ペンディスキーピアノコンクール（サラトフ）等、数々の国際コンクールで優勝及び入賞。日本国内では、高松国際ピアノコンクールのほか、'17年第1回 Shigeru Kawai 国際ピアノコンクール（東京）ファイナリスト。



コンサートマスター 福崎至佐子 *Hisako Fukuzaki*

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ヴァイオリンを故 神崎初美、故 巖本真理、故 岩崎洋三、ボヤン・レチェフ、徳永二男に、室内楽を故 ルイ・グレーラーの各氏に師事。日本フィルハーモニー交響楽団を経て1972年、新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターに就任。コンサートマスターのルイ・グレーラー氏と弦楽四重奏を組みTV、FM東京、CM、映画音楽、レコーディングに活躍する。1985年、高松に帰郷し、ゴールドブレンドコンサート、四国二期会オペラ、四国学院大学メサイア演奏会などでコンサートマスターを務める。現在、高松大学名誉教授。かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）音楽監督。高松交響楽団常任コンサートマスター。新日本フィルハーモニー交響楽団団友。日本演奏連盟会員。日本クラシック音楽コンクール・全四国音楽コンクール・山陽学生音楽コンクール等審査員。平成13年度「香川県教育文化功労者表彰」、第42回「四国新聞文化賞」、平成16年度「香川県文化功労者表彰」受賞、第67回「山陽新聞賞（文化功労）」受賞。平成21年度地域文化功労者文部科学大臣賞受賞。第20回（2011年）第23回（2014年）日本クラシック音楽協会優秀指導者賞受賞。2016年福山音楽コンクール「優秀指導者」受賞。平成29年度よんでん芸術文化功労賞受賞。



管弦楽 高松交響楽団 *Takamatsu Symphony Orchestra*

1951（昭和26）年8月、故 緒方益園氏が県内の有志を募って創立。同年11月香川県公会堂において第1回定期演奏会を開催し、高松に初めてオーケストラの灯を燈す。爾来、半世紀以上に亘る活動が続け、2021年に創立70周年を迎える。これまで120回を超える定期演奏会をはじめ、県内外での特別演奏会、青少年を対象にした音楽教室の実施、香川県県民ホール開館20周年記念オペラ「蝶々夫人」全幕公演（2008年）、サンポートホール高松開館5周年記念「カルミナ・プラーナ（パレエ付き）」公演（2009年）をはじめ、オペラ・バレエ等の他団体や地元音楽家との共演など地域に深く根ざした幅広い活動を積み重ねている。2001年に迎えた創立50周年を機に新たな半世紀に向けた取り組みとして、高響団員を中心に新たに編成された「コレギウム・ムジクム高松」、「高松オペラシティ・オーケストラ」などの多面的なオーケストラ活動を展開している。さらには2001年より香川県の主催事業となった「かがわジュニア・フィルハーモニックオーケストラ（KJO）」、2003年1月に設立された「丸亀シティフィルハーモニックオーケストラ（MCO）」への演奏・運営面での全面協力など、地域音楽文化の核ともいえる重要な役割を担う香川のマスター・オーケストラとして様々な取り組みを行っている。1987年、地方文化の発展に大きく貢献した功績から音楽団体として四国で初めての「地域文化功労者表彰」を文部大臣より受賞。2008年、香川県より栄えある第1回「文化芸術選奨」を受賞。現在、オーケストラの団員数は、約150名。

皆様、ようこそお越し下さいました。

今回の演奏会では「近代ロシア音楽の饗宴」と題し、ムソルグスキー・ラフマニノフ・ショスタコーヴィチの3人のロシアの作曲家による作品を演奏いたします。

指揮者には、2012年の第109回定期演奏会に続き田久保裕一氏を、ソリストには、2018年3月開催の第4回「高松国際ピアノコンクール」ファイナリストのゲルマン・キトキン氏を招聘しました。

それぞれに個性的な感性を放つロシア音楽の数々を、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

Program

交響詩「はげ山の一夜」(M.ムソルグスキー N.リムスキー=コルサコフ編)

19世紀後半、自国ならではの民族性(ナショナリズム)を大切にしようと考え活動したのが「ロシア5人組」という音楽集団で、ムソルグスキーはその一員でした。

ムソルグスキーは、生涯作曲家としての環境に恵まれず、多くの曲が未完成に終わってしまいます。彼の作品は、当時としては極めて独創的で、斬新さと活気に満ちており、正に異才とも呼ばれる才能に溢れた曲を沢山生み出していました。その才能を認め、理解していたのが、友人のリムスキー=コルサコフです。彼はムソルグスキーの死後に、多くの作品を改変し完成させ、世に送り出しました。この「はげ山の一夜」もその中の一つの曲です。

総譜には次のような標題が記されており、是非これを読んで曲を聴いて頂きたいと思います。

「地下に響く不思議な声。闇の精たちの登場。続いて闇の神チエルボーグの出現。チエルボーグに対する領歌と暗黒ミサ。魔女たちの饗宴。饗宴が頂点に達したところで遠くの村の教会の鐘の音が鳴り響き、闇の精たちは消え去る。そして夜明け。」



モデスト・ムソルグスキー
(1839-1881)

ピアノ協奏曲第3番 二短調 (S.ラフマニノフ)

ラフマニノフは、ムソルグスキーのはげ山の一夜作曲から数年後に生まれ、ショスタコーヴィチの交響曲第5番作曲から数年後に亡くなった作曲家で、チャイコフスキーのスラブ的情緒を受け継ぐ、ロマンティシズム溢れる作品を残しました。また、ピアニスト、指揮者としても活躍し、特にピアニストとしては屈指の名手として知られています。

今回演奏するピアノ協奏曲第3番は、ラフマニノフの作品の中でもよく演奏されるピアノ協奏曲第2番と双璧をなす名曲です。第3番は、ラフマニノフ自身のピアニストとしての演奏旅行のために作曲された曲で、深い音楽とともに、数あるピアノ協奏曲の中でも最高レベルの技術をピアニストに要求し、第2番と比べて演奏される機会は少ないですが、オーケストレーションを含め、その充実度は第2番を凌駕しています。天性のメロディーメーカーとしての天才性が目立つラフマニノフですが、そこに、後年ほど、より精巧さが加わっていくのは、天才性の陰に隠れた秀才の見せる業だったのかもしれない。



セルгей・ラフマニノフ
(1873-1943)

第1楽章 Allegro ma non tanto 短い序奏に続いて、憂いを帯びた第1主題がピアノで端正に演奏されます。この主題は、オーケストラで繰り返された後、愛情に溢れた第2主題の歌を挟みながら、ピアノのカデンツァに至り、ついに、その主題に秘められていた情熱が吐露されます。そして、再度、淡々と繰り返された後、静かに1楽章は終わりますが、この主題は、第2楽章以降も姿を変えながら時折姿を見せます。

第2楽章 Intermezzo. Adagio 間奏曲と題されたこの楽章は、夢想的で曖昧な雰囲気の中で漂う音楽で、途中、エピソードに挿入されるワルツ風の音楽は非常に印象的です。再び浮遊的な気分に戻ったかと思うと、ピアノが決然とした動機を示し、そのまま3楽章へなだれ込みます。

第3楽章 Finale. Alla breve それまでとは打って変わって煌びやかな楽章です。決然とした力強い音楽に始まり、展開部では、柔らかなオーケストラの伴奏の上を、ピアノが華麗に舞います。そして、最初の音楽が繰り返された後、弦楽器のユニゾンの強奏を合図にいったん凝縮された音楽は、徐々に感情を高ぶらせて、輝かしいエンディングを壮大に迎えます。

交響曲第5番 二短調 (D.ショスタコーヴィチ)

ショスタコーヴィチがこの曲を作曲したのは1937年、スターリンの粛清の嵐が吹き荒れるソビエト連邦でのことでした。芸術作品にも「体制賛美」が求められ、彼もそれまでに発表していた意欲作が、当局から「反逆的」と取られ窮地に立たされていました。次の作品で下手をすれば作曲家生命の危機が…という重圧の中で生み出された交響曲第5番でしたが、初演は大成功で、彼は危機を脱することができました。古典的で明快な楽曲構成にモダニズムを見事に融合させたこの作品は、彼の天才的な側面をよく表しており、政治的な事は抜きに、20世紀最高峰の芸術作品の一つとなりました。その力強さ、分かりやすさから、一聴しただけだと「体制賛美」にも聴こえますが、一方、音楽をよく聴きこむと「隠しメッセージ」の様なものもあることが分かってきます。それがこの楽曲を、聴けば聴くほど面白いものになっています。



ドミトリ・ショスタコーヴィチ
(1906-1975)

第1楽章 Moderato 作曲時のショスタコーヴィチ本人のような張り詰めた緊張感の中で鋭く始まり、荒涼たるロシアの大地を1人とはとぼと移ろう様な音楽へと続いていきます。次に「タタタ タタタ」という伴奏音型に乗ってヴァイオリンやヴィオラに出てくる旋律は、恐らく、ビゼー作曲の歌劇「カルメン」から“ハバネラ”の引用です。突然のピアノの打鍵を合図に、何かに追いまわされるように音楽は切迫し、シンバル一閃、トランペットの軍隊行進曲を経て、音楽は凶暴さ、怒りを増していきます。頂点で銅鑼の一撃をもって怒りは鎮まり“ハバネラ”が原曲に近い雰囲気です。甘く奏でられますが、それもつかの間、再び荒涼たるロシアの大地に1人……。

第2楽章 Allegretto この楽章は楽しい息抜きです。前楽章の重苦しい雰囲気は一旦リセットして、くつろいで聴いていただけたらと思います。ぶっきらぼうなコントラバス、とぼけたクラリネットやファゴット、骨が踊る様な滑稽なワルツ、中間部では、洒落たヴァイオリンソロやフルートと続きます。楽しい音楽ですが「ワハハ」という笑いではなく「ニヤリ」と皮肉っぽい笑いなのがショスタコーヴィチ流です。

第3楽章 Largo 再びシリアスな世界へ戻ります。この楽章では金管楽器が全て沈黙し、一方、弦楽器は通常5パートの所を8パートにも分割され、繊細で緻密な音楽が奏でられます。ロシアのツンドラのような、寒々しい雰囲気の中に、深く透명한哀しみを湛えています。オーボエに始まり木管楽器が歌い継ぐ主題は全曲を通じて最も美しい音楽です。この主題は変容していき、弦楽器のトレモロの喧騒の中チェロの慟哭となり、最後にはハープとチェレスタによる神への祈りとなって静寂に消えていきます。

第4楽章 Allegro non troppo ティンパニの力強い伴奏で、金管楽器による勇壮な主題が始まります。気持ちが高ぶる勇ましいフィナーレです。穏やかで瞑想的な中間部を経て、弦楽器が執拗に繰り返す「ラ」の音をバックに、金管楽器が高らかに主題を吹く圧倒的勝利へと向かいます。なお「ラ」の音は古いロシア語で「私」という意味があり、「主題」の最初の4音「ラ レ ミ ファ#」は、1楽章でも引用のあった“ハバネラ”の原曲中「ご用心!」という歌詞の部分と全く同じ音型です。ショスタコーヴィチが音楽で、何かに「気をつけろ」と言っていると解釈もできるわけです。聴き終えたあと、ショスタコーヴィチの真意はどうだったのかにも思いを巡らせて下さったと思います。

【高響倶楽部法人会員】

社会福祉法人 サマリヤ
四国岩谷産業 株式会社
香川トヨベツト 株式会社
ネットトヨタ高松 株式会社

楽器堂
GAKKIDO CORPORATION
www.gakkido.jp



いい音楽との出会いを大切にします
ピアノ/管楽器 弦楽器 キターベース 打楽器 及び楽器販売

楽器堂オーバースイッチモール高松店
高松市番町1-1イオンモール高松1F
TEL: 087-832-8016

楽器に関するご相談、何でも受付中です!

更なる高みへ、次なる進化へ。

20th
SHIGERU KAWAI
1999 - 2019



株式会社 河合楽器製作所 〒430-8665 浜松市中区寺島町200 tel.053-457-1311



スタインウェイピアノ 香川県正規特約店
有限会社 高松ピアノ工房
ピアノ・オーバーホール・調律・修理・レンタル
■ショールーム/
高松市木太町7区3685 TEL087-833-6049
■工場/
高松市木太町7区3464 TEL087-833-9433

各種行事の記録ビデオ制作をはじめ映像情報コンテンツの制作なら

株式会社 よんでんメディアワークス

TEL (087) 818-1071
FAX (087) 818-1072
URL <http://www.ymw.co.jp>
E-mail info@ymw.co.jp

